

かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ

所在地：南巨摩郡富士川町鞆沢771-2

TEL：0556-22-8154

FAX：0556-22-8144

HPでも御覧いただけます。URL <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

峡南地推協 新会長あいさつ

去る6月24日に開催されました峡南地域教育推進連絡協議会の総会において、会長に選任されました。4名の副会長さんをはじめ、役員の皆様方や関係機関の皆様方の御協力をいただきながら、峡南地域のよりよい教育を推進するために、



地推協 江本たまき 新会長

微力ではありますが、努力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

この協議会は、平成17年に設立されました。少子化、核家族化、人々のつながりや共同体意識の希薄化などにより、家庭や地域の教育力が低下しているという認識の中で、子どもの健やかな成長のために家族、学校、地域がそれぞれの役割と責任を果たしていくには、どのように連絡協力していけばいいのかという命題克服のために設立されました。この地域の現状を見ますととても必要な事だと思います。課題があるからこそ、その課題を克服するために頑張ろう！と思うようにもなります。この地域を愛し、この地域で活躍してくれる子どもたちと一緒に育てて行きましょう。そのために地域教育フォーラム、異校種連携セミナー、子育て学習会、情報誌「かけはし」の発行などを行っています。地域の指導者の意識を高め、子

育て世代への学習の場の提供、異校種間の情報の共有化などに効果が見られます。この会も10年を過ぎ、新たな気持ちをもって、取り組んでいきたいと考えています。結びに、本会の益々の充実のために関係者各位の御指導、御協力をお願いし、あいさついたします。

| | |
|-------------|--------------------------------|
| かけはし139号の誌面 | |
| p1 | 地推協会長挨拶 教育フォーラム御案内 |
| p2 | 連載特集『峡南地域の食材』 No.11 ・大自然体験会 |
| p3 | 異校種連携セミナー講演要旨 |
| p4 | 防災サマーキャンプ・高校体験 入学 |

☆☆☆峡南地域教育フォーラムの御案内☆☆☆

- ◇日 時 平成27年11月17日(火) 午後2時～4時40分(受付開始 午後1時30分)
- ◇会 場 身延町総合文化会館 2階会議室(身延町羽木井407 Tel.0556-62-2110)
- ◇内 容 実践発表「子どものよさと意欲を引き出す働きかけ」
発表者 身延山高等学校 手話コミュニケーション部顧問 小澤伸英 先生
- 講演会「子どものやる気を育てるほめポイント」
講 師 上級教育カウンセラー・上級プロフェッショナル心理カウンセラー 齋藤正志 氏
- ◇参加者 峡南地域の保育所・幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校の保護者・教職員、教育委員会関係者、地推協関係者、子育てに関心のある地域住民の皆様どなたでも
- ◇申込み 11月10日(火)までに、電話、ファックス、メールにて、担当まで御連絡ください。
- ◇申込先 山梨県教育庁 峡南教育事務所 地域教育支援担当 佐藤・田代
TEL：0556-22-8154 FAX：0556-22-8144
eメール：satou-uwrrh@pref.yamanashi.lg.jp (佐藤)

☆☆連載特集 『峡南地域の食材』No. 11

早川町「茂倉ウリ」と食改さん



【早川町の自然環境】

早川町は県の南西部に位置し、日本で最も人口の少ない町、南アルプスの山々に囲まれた自然豊かな町です。町のほぼ中央を、町名の由来にもなった富士川の支流早川が貫流しており、大小の滝や溪谷が、美しい溪谷美を作り出しています。また、開湯1300年の歴史を有する「西山温泉」をはじめ、町内各地に温泉が点在し、温泉ファンを魅了しています。

【茂倉ウリ】

130年以上前から茂倉集落に伝わる在来種のきゅうりで、普通のきゅうりに比べ太くて短めで、強く重く、瑞々しく甘い香りが特徴です。水分を多く含む茂倉ウリは、夏の暑さを乗り切るのに最適とされています。定番料理は「冷や汁」で、冷やしただし汁に味噌を加え、千切りの茂倉ウリ、大葉、みょうが、ネギ、ゴマ、氷等を入れて作ります。早川町の食改さんに作っていただきましたが10分ほどで完成、とても美味しい一品でした。



皮をむいて → 千切りにして → 用意しただし汁に入れる → 味噌やごま等を入れて → 冷や汁の完成

【早川町の食改さん】

早川町の食改さんは、辻美江子会長を含め現在29名です。町内のアンケート調査により、朝食をとらない若者が多いことが判明したため、小学生の時期から自ら調理できる子どもを増やそうと、5年前から小学生向けの料理教室を行ってきました。今年度は、「おやこの食育教室事業」として、町内親子を対象に、バランスのとれた料理の講習会を実施する予定です。訪問した日も、近藤節子副会長中心に入念に打ち合わせをしていました。



【おばあちゃんたちの店】

地元のおばあちゃんたちによる「おばあちゃんたちの店」は、新倉（あらくら）地区にあり、町の特産品などの販売所、地域のコミュニケーションの場として、オープンしました。現在は、南アルプス生態邑 町営ヘルシー美里/野鳥公園（大西信正所長）が、その経営を引継いで行っています。店頭には、茂倉ウリをはじめ地域の特産品が数多く並べられていました。地域の方々や多くの観光客で大変賑わっていました。



大自然体験会 (富士川町増穂ふるさと自然塾)

7月30日(木)～31日(金)の1泊2日で大自然体験会が行われました。目的は、大自然の中で、野外体験活動や自然の観察をしながら環境問題の興味・関心を高めること、異年齢集団での宿泊活動を通じて自主性・協調性を育てるとともに、地域ジュニアリーダーの育成を図ることです。放課後子どもプラン事業の一環として、富士川町教育委員会が主催、青少年育成富士川町民会議が共催し、富士川町内の小学4年生～6年生の19名が参加しました。初日は、会場となるふるさと自然塾で、テント張り、野外炊飯、ナイトハイクを行いました。二日目は、野外炊飯、昼食のおにぎり作り、メイン行事である大自然ウォークラリーを行いました。ふるさと自然塾→旧増穂西小学校→利根川センターまで、約6時間かけて班ごとに歩いて下山していきました。途中、春米内の自然や文化財を巡ったり、班対抗ゲームを楽しんだりしました。ゴールの利根川センターには、子どもの到着を待つ保護者の姿がありましたが、元気に帰ってきたお子さんを見て、たくましく感じたことでしょう。子どもたちは、大自然の中での数々の体験を通して大きく成長できたことと思います。この貴重な体験をこれからの生活に生かしてほしいと思います。



平成27年度 異校種連携セミナー

前号でお伝えいたしました、6月24日(水)開催の峡南地域異校種連携セミナーにつきまして、実践発表および講演の要旨を紹介させていただきます。

生徒会によるスマホルールづくりの取組

笛吹高等学校 井上孝悦 教頭先生
生徒会役員の皆様4名

昨年度まで、同校ではスマートフォンから発信される不適切な写真・テキスト等が原因となるトラブルが後を絶たない状況でありました。教員達がルールを作って生徒に与えることは簡単ですが、それではあまり浸透しないという考えから、「生徒の手による改善」の取組を行うことにしました。手法としては、まず問題(困っていること)の抽出、続いて課題(解決すべきこと)もしくは解決できること)の抽出、そして、目標(課題が解決される過程、解決された時点でのあるべき姿)の設定です。目標設定に向けた具体的手立てとしては、様々な意見を適切にまとめ上げていくために、整理(捨てること)→整頓(仲間同士を集める・カテゴリー分け)→整列(仕事の順番に並べる)の過程を大切にしました。2次元マトリックスと3×3フォーメーションを活用して、クラス単位・学年単位・学校全体といった階層ごとに意見集約を進め、最終的に学校課題の明確化を図りました。そして、スマホガイドラインを明文化し、有志決意表明、スマホガイドラインの宣誓・公開に至ることができました。「スマホ利用宣言文」の内容に関しては、①自分を守るために知識をつけること、②大切な人を守るために心を配ること、③責任ある行動がとれる人になること、以上3つの視点を重視しました。ただ、これで取組が終了したわけではなく、スマホについて生徒が問題意識を持ち続けることが大事であり、継続して取り組むための次なる手立てを検討していきますと、最後を締めくくっていました。



(井上孝悦教頭先生)



(生徒会の皆さん)

便利な社会 身近に潜むネットトラブル

eネットキャラバン専門認定講師
「ひかりば」代表 原田光久 氏

スマホが急激に普及しその危険性が叫ばれています。しかし、子どもに対して「危険だから禁止」とスマホから遠ざけるだけでは何の解決策にもなりません。将来、必然的にネット社会へ飛び込んでいく子どもたちに、その危険性と予防法を伝え、子どもがトラブルに巻き込まれず、賢く使いこなせるためのサポートをしていくことが重要です。そのためには、まずは、大人が、スマホやネットに関して必要な知識を得る必要があります。ネットの5つの特徴(①公開性、②信憑性、③記録性、④侵入可能性、⑤追跡性)と3つの落とし穴(①あてにならない公開範囲、②あてにならないプロフィール、③気がつけば自分が被害者・犯罪者)があります。ネットトラブル発生のきっかけの多くがSNSです。420万人が予備軍と言われる依存症をはじめ、見知らぬ人同士の出会い系、個人情報流出、不用意な投稿による交友関係トラブル、著作権・肖像権違反、ネットいじめ、などの多くの問題が生じています。特にネットいじめは、「24時間365日」被害に晒され、短期間で深刻な事態に陥るリスクがあります。また、加害者と被害者の関係に双方向性があり、いつ自分がターゲットにされるかという疑心暗鬼に陥る特徴があります。身近な大人による状況把握が困難、転用性が高く拡散した情報の回収が困難、環境変化のスピードが速く問題の原因や背景把握に手間取る、などが対策を講じる側の課題としてあげられます。そのため、背景や全体像の把握を慎重・迅速に行うと同時に、3つの対策(①被害者本人が安心できる場＝空間の確保、②問題事案と加害者等特定のための証拠の保全、③証拠保全後の「削除依頼」などネット特有の対策)が重要となります。ネットトラブルにおいては、①社会の変化を知る、②必要な機能を選ぶ、③使い方を話し合う(目的意識の共有・フィルタリングやルールの設定)などが大切です。親の対応ポイントとして、①一旦受け止める、②危険なのは「知らない」ことと認識する、③親の常識だけで考えない、があげられます。講演の間、参加者に質問を投げかけたり動画を効果的に用いたりして、終始、参加者を引きつけていました。内容の濃い充実した講演でした。



(原田光久氏)

防災サマーキャンプ

異校種・地域連携事例紹介



身延高校（仙洞田一郎校長）を会場として8月7日（金）～8日（土）の2日間、防災サマーキャンプが開催されました。これは、「地震発生時において、地域のために率先して働くことができ、所属校においてはリーダーとなって防災活動を推進していく意欲や知識を持った人材を、地域や町・県と協働して育成する」ことを目的として行われています。今回は、身延高校の他、新潟県立柏崎工業高校、身延中学校、南部中学校の生徒等、総勢26名が参加しました。1日目は身延町総務課の望月克仁氏、常葉大学教務課の湯山和行氏の講義とワークショップ、2日目は常葉大学社会環境学部准教授の小村隆史氏のもと、防災タウン・ウォッチングとワークショップ（討論、発表）が行われました。参加した生徒達は、終始真剣な態度で臨んでいて、リーダーとしての自覚が強く感じられました。将来、「防災に強い町づくり」の先頭に立ち活躍してくれることを期待しています。

県立嶽南高校

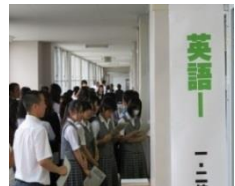
高校オープンスクール

嶽南高校（向山豊隆校長）は、中学生・保護者・中学校教員107名が参加する中、オープンスクール（実習体験）を8月22日（土）に実施しました。全体説明の後、あらかじめ希望した2学科の実習に中学生が臨みました。電子機械科はCADによる製図マニシングセンター加工、クラフト科は金属加工（鋳造）・金属加工（仕上げ）、土木システム科はCADによる製図・トータルステーションによる測量といった、それぞれの科の特徴を生かした内容でした。体験に臨んだ中学生達は当初、専門的な内容に少し戸惑っていましたが、高校側の丁寧な説明や現役高校生が補助員として中学生に支援することで、次々と与えられた課題を見事にこなしていました。工業高校らしいものづくりの楽しさがよく伝わってくるオープンスクールでした。



県立市川高校

市川高校（丹沢公彦校長）は、7月4日（土）に第1回オープンスクールを実施しました。中学生364名、保護者253名、中学校教員13名が参加。学校長のあいさつの後、A団・B団に分かれて学校説明・授業参観を行いました。学校説明では生徒会長の話、学校概要・入試説明、進路概要・実績についての説明、卒業生の体験談等を含めた生徒手作りの学校紹介VTRが上映されました。授業参観は、英語Ⅰ、世界史、数学Ⅰ等6科目の授業を、班ごとに参観。その後、音楽部によるミニコンサート、i fトーク（在校生とのクイズやディスカッション）が行われました。全体会終了後は、希望者での部活動見学・体験、英語によるワークショップが行われ、多くの中学生が参加しました。参加者の意欲・関心の高さが伺えるオープンスクールでした。



県立増穂商業高校

増穂商業高校（若林毅文校長）は、6月27日（土）に第1回体験入学（第2回は8月8日）を実施しました。中学生・保護者・中学校教員など132名が参加しました。全体説明会では、社会における実務的な学習ができること、多くの検定・資格試験を取得する支援体制が整えられていること、資格取得が様々な進路に直結し進学・就職100%を達成していること、部活動の活動状況等が紹介されました。参加者は真剣な表情で話を聴いていました。続く体験授業では「簿記」「情報処理」「ビジネス実務」の商業科目に、中学生・保護者・中学校の教員も参加しました。終了後には部活動見学と並行して「いきいきショップ増商」も出店。同校の生徒が授業で開発した商品を実演販売しました。参加者の表情から、十分に魅力が伝わったと感じました。



嶽南地域人権講演会

8月17日（月）、市川三郷町歌舞伎文化公園内ふるさと会館にて、嶽南地域人権講演会が開催されました。今年度は、NPO法人ジェントルハートプロジェクト理事の小森美登里氏をお迎えし、「いじめって何ですか？いじめに対する大人の認識を考える」と題し御講演をいただきました。講演内容は次号で詳しくお伝えします。